

東京大学見学会感想文

1. 企業大学訪問

私たちは、防衛省航空自衛隊の中枢部がある航空自衛隊市ヶ谷基地を訪問させて頂いた。

私は航空自衛隊の方々との質問までの間、様々な事に驚いた。まずはやはり警備をしっかりしている、というところだろう。私たちの班が基地内に入ろうとしたら、いきなり身分を確認されたので改めてすごいところに来ていることを実感した。そのため建物内の移動はIDカードが必要であった。入口には銃を持った警備の人がいたので、若干怖かった。その後私たちは、防衛省の中枢部があるビルに入った。そしてエレベーターに乗って質問をする場所へ行った。エレベーターの速さも商業施設のものよりも速く、すごいと思った。

私たちは航空自衛隊幕僚監部広報室に勤務されているの方々にお話を伺った。この広報室は、数年前に放送された「空飛ぶ広報室」という綾野剛主演のドラマのモデルとなった場所である。みなさんお仕事で忙しいのに私たちに挨拶もしてくださった。そしてこの広報室内を少し見学させて頂いた後に、別室にてお話を伺った。私は以前C-2という今後航空自衛隊に配属される予定の大型輸送機の整備をされていた方にお話を伺った。私は航空機や車両などの整備をしたいと思っているので、とても為になるお話を聞かせていただくことができた。私が航空機の整備士の仕事内容について尋ねたところ、機体にトラブルが発生した際、その機体を次の日までに、何事もなかったかのように修理をしてパイロットに機体を返却するということだった。機体に生じたトラブルが複雑なものであると、夜遅くまで整備をすることもあるそうだ。私は航空機整備がそんなに時間のかかる仕事とは思っていなかったので、夜遅くまで働くこともあると知って驚いた。私は今までの仕事に対する考えが甘かったことに気がついた。ただ、大変な仕事ではあるが、自分が整備した飛行機をパイロットへ返却するときに、感謝のことばを述べられたりすると、辛くても仕事を続けていてよかったと思うそうだ。また、高校生、大学生のうちにやっておいたことが良いことを尋ねると、勉強はもちろんのことだが体力をつけるために運動をすることだそうだ。やはり働く時間が一定ではなく夜遅くまで働くこともあるので、今のうちから体力は付けておく必要があるとおっしゃっていた。今回私たちがお話を伺った方は大学で激しい運動部に入って体力を付けたそうなので、私も体力をつけようと思った。また、勉強のほうでは専門的な事は大学以降学ぶので、今のうちは今やっている勉強をしっかりと行うことが大切だとおっしゃっていた。

その後は三島事件の起こった場所や、極東国際軍事裁判が行われた館が再現された市ヶ谷記念館を見学した。中の扉には、三島由紀夫がつけた刀傷の跡があった。とても歴史ある場所を見学させて頂いた。

航空自衛隊の方々には、私たちにとても丁寧にわかりやすく説明して下さいました。また、質問を通して私たちは様々な大切な事を学ぶことができた。今回の訪問は非常に貴重な経験だったと思うので、今回の経験で得られたことを次に生かしていきたい。

2. OB・OG との懇談会

東京大学のオープンキャンパスを翌日に控えた夜、私たちは東京大学・大学院の学生で仙台二高OB・OGの先輩方から大学生活について伺った。まず、法人を立ち上げて現在は日本酒を海外に発信していて、日本酒業界最年少で海外との取引を成立させたことで、日本酒業界ではかなり有名な方にお話を伺った。先輩は、大学生のうちに何か自分で興味のあることなどを、プロジェクト化して取り組んだりするとよいとおっしゃっていた。社会人になった時に、様々な人と協力して働くためにコミュニケーションの能力を付けるためだという。また、東京大学では前期課程の成績で後期の学部・学科の選択があるそうで、やはり出される課題などは難しいかと尋ねたら、講義を

聞いて自分で勉強をしていれば問題はないが、高校とは違って授業中に重要事項は教えられることはなく、教授がほぼ一方的に話し続ける形式のため、自分で学ぶスタイルへと学習スタイルを大きく変えなければ、大学では大変だということだった。中学から高校での学習スタイルは変わったが、大学では学習スタイルは大幅に変えなければならぬので自分で学ぶ姿勢を今から作るのが大切だと思った。他にも様々な先輩からたくさんのお話を伺うことが出来て大学への興味が益々深まった懇談会であった。

3. 東京大学オープンキャンパス

8月6日に東京大学のオープンキャンパスに参加した。まず、東京大学の名所である赤門を見たとき、写真では大きく見えたが私の想像していた大きさよりはすこし小さかったので驚いた。私は工学部の講義を聞きたかったが、参加した日には残念ながら講義は行われていなかったため、学部説明会を聞くことにした。東京大学工学部は日本最高峰の大学であり、企業などとの技術提携が非常に強いことが分かった。具体例で言うと、航空宇宙工学科は宇宙研究航空開発機構（JAXA）とともに人工衛星に搭載する部品や機械の開発を行っているそうだ。詳細な話は聞けなかったが、東京大学の工学部の概要は理解できた。

その後私は全学部を回ってみることにした。本郷キャンパスはとてつもなく広く、歩くのが大変だった。医学部の方まで来た時には、すぐ近くは上野動物園だと聞いてあまりの広さに驚いた。どの学部・学科も様々な研究をしていることが分かった。特に文学部の中に考古学などの屋外に出て研究をする学問があるのには驚いた。文学部は主に書物の研究をしていると思ったからだ。私はこのときに、だから1~2年の教養課程が大切なのだと思った。

その後、私は食堂に行って昼食をとることにした。理学部の後ろにある人気の第二食堂を使ってみようと思ったが、あまりの混雑ぶりに断念してしまった。その時大学生の方から、農学部近くにある食堂を勧められたので、そこに行くことにした。ここはあまり中高生がおらず、大学生や一般の方々が多いのでよく使われているのかなと思い、ここで昼食をとった。この食堂ではカツカレーが人気らしいので、それを注文した。大盛りを頼んでも、五百円でお釣りがくることを考えると、学生にとっても優しい食堂であることが分かった。カレーもなかなか美味しく、これが東大生のエネルギー源となっているのだなと思った。食べ終わって、赤門のほうへ戻ろうとしたときに、私は壁になにかが貼ってあることに気がついた。よく見てみると、それは大学生協の従業員に大学生が相談している内容が書かれた掲示板だった。大学生は悩みが多いため、大学生協の従業員に相談や要望をするということだった。一般的には置いて欲しい商品があるかを尋ねていたが、中にはやる気アップの方法など私生活の悩みを相談している人もいた。しかしそんな悩みにも生協の従業員の人は真面目にかつ面白く返答していたので見ていておもしろかった。中にはこんなものもあった。「切身ちゃんの絵が上手く書けません。どうしたら良いですか。」という問いかけに対して、生協の従業員は「上手く書けないのなら、違う方向に走りましょう。」と書いてとてもリアルな切身ちゃんを書いていた。私は前日に三菱でのディレクトフォースで、切身ちゃん存在を知ったので、大爆笑してしまった。東大生と生協の従業員のやり取りは見えておもしろかった。

オープンキャンパスで私は、東大生は皆まじめだという固定観念が壊れて東大生でも様々な人がいるということが分かった。大学生の方とキャンパス内で話した時に、何か究極の趣味を大学入学前に持った方がよいとおっしゃっていたので、私も趣味の一つ作ろうと思った。今回の経験を通して、大学は改めてすごい場所であると実感すると同時に、全国から多くの高校生が来ていたので、大学受験は全国大会だという意識を持って、生活しようと思った。